

利尻島、礼文島でのハイキング

文： 野沢 聡子（42文）

写真：大森 久枝（49経）

日本列島を南から台風が北上しつつある6月25日の朝、羽田空港から札幌千歳空港を経由して利尻空港に降り立ったのは、小田伊津子さん、大森久枝さん、古後利佳さん、そして私の4人。そこから日本列島の最北端の稚内の北西方向の日本海上に浮かぶ利尻島・礼文島の4泊5日の旅が始まった。

タラップで降り立った利尻空港では強風が私たちを歓迎してくれた。実はこの強風が礼文島での私たちのハイキングを脅かすことになるとは知る由もなし。

利尻島ハイキング（25日午後と26日午前）

利尻空港近くのホテルに荷物を預け、その足で大部分が「利尻礼文サロベツ国立公園」に指定されている利尻島のハイキングを開始する。

「利尻」はアイヌ語で「リ・シリ（高い・島）」。その名のごとく島の中央には日本百名山にも選ばれている標高1721mの利尻山（利尻富士とも呼ばれる）がそそり立っている。登り6時間、下り4時間はかかる登山はパスした私たちが最初に訪れたのは島の北にあるフェリーターミナル



利尻山を背景に「姫沼」で

近くの「姫沼」。翌日も晴れて、午前中は島の南にある「南浜湿原」を歩いた。どちらも一周20分ぐらいで歩ける遊歩道を花ガイドさんから渡された双眼鏡と虫眼鏡を片手にそれぞれ1時間、2時間かけて歩いた。

今回のハイキングすべてがガイド付きで、利尻島で一緒になったのは私たちと年恰好も同じような元気な女性たちで、沖縄から来たという人もいて驚いた。

チシマアザミやエゾカンゾウ、ワタスゲの群生などの野生植物をガイドさんが一つひとつ丁寧に説明してくれるも、あまりに種類が多くて頭に入らない。トドマツ、エゾマツなどの木々にからまった白いツルアジサイ、コマドリや鶯のさえずり、クマゲラが木を叩く音や沼面を泳ぐカイツブリやウミネコの群れなどは今も頭に残っている。

礼文島ハイキング（27日と28日午前、29日午前）

「レブンシリ（沖の島）」とアイヌ語で呼ぶ礼文島へは利尻島からフェリーで45分。利尻島に比べ礼文島には高い木がなく、低い山（最高は490m）一面を覆う高山植物とササの群生がきれいに棲み分けられていた。島の北側は山火事で樹木が焼失したこと、雪が強風で吹き飛ばされる所には高山植物が、雪が積もる所にはササが群生する



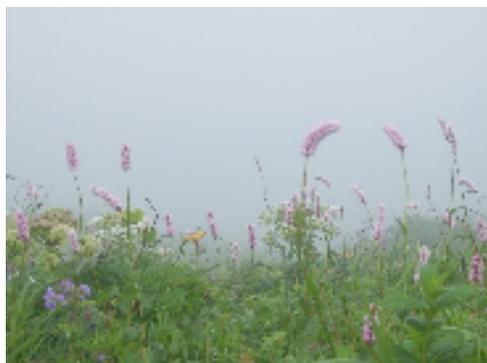
礼文島の林道コース

とガイドさんが説明してくれた。温暖化の影響でササが近年増えているそうだが、それでも高山植物がそこかしこに咲いているのは、大陸からの冷たい季節風が年中吹き、霧が発生する島の自然環境が標高の高い山の環境に似ているからだそうだ。

礼文島でのハイキングは4人だけのプライベートガイドの案内で、フェリーターミナルのある島の南側の「礼文滝コース」(道が通行禁止で滝までは行けず、途中から礼文林道コースを歩いた)5時間と「桃岩展望台コース」を4時間、島の北端のスコトン岬を目指す「岬めぐりコース」を5時間、それぞれ3日間で歩いたが、どのコースも利尻島とは異なり、遮る木々はなく、崖下の海に転落しそうな高低差のある道を強風に吹き飛ばされまいと必死に歩いた。過酷だったのは強風だけではない。「岬めぐりコース」では霧雨の中、雨具を着てのハイキングとなったが、それでもゴロタ岬やスコトン岬からの眺望が私たちの疲れを吹き飛ばした。



礼文島の岬コース



イブキトラノオの群生

お目にかかれないうさまざな大小の植物たち。驚かせたのはレブンアツモリソウの乱獲を防ぐための警告の看板と鉄線だった。

礼文島では200種以上の高山植物が見られるそうだ。とくに有名なのが島の固有種で白い大きい花を咲かせるラン科の「レブンアツモリソウ」だが、花はすでに終わっていた。代わりに私たちを喜ばせたのはエーデルワイズの仲間のレブンウスユキソウの群生、エゾカワラナデシコ、イブキトラノオ、エゾノシ



レブンウスユキソウの群生

今回の旅はとてもラッキーだった。何故なら、多くの人が利尻島まで行くも天候不順で礼文島にフェリーで渡れないことが多い中、何よりも天候に恵まれたから。しかも、両島には島リスぐらいで、海にトドはいたが、クマやヘビなどがいないのもラッキーだった。(利尻島にはヒグマが1頭いたらしいが、その後消息不明とか。)

ハイキングとは直接関係ないが、礼文島の北の港町（船泊）で3日目に泊まった洋館作りの宿はアガサクリスティーの「そして誰もいなくなった」を思い出させるエキセントリックな雰囲気だったがうまく説明ができないので、興味ある方はぜひ自身でご体験下さい。

また、両島に学校はあったが子供の姿をほとんど見かけなかった。礼文島の港町船泊で唯一の住民の憩いの場になっているという小さな食堂で美味しい海鮮味噌ラーメンを作ってくれた夫婦、同じく島の北側の澄海（スカイ）岬でタラのすり身の串揚げをくれた小さな土産屋の夫婦たちに跡継ぎがいるのだろうかとなった。因みに、利尻島の人口は5400人（H22）、礼文島の人口は2572人（H30）だそうだ。

ハイキングはもちろん、毎晩、宿泊先でおいしい生ウニと魚介料理を堪能して大満足だった4人は29日に礼文島からフェリーで稚内へ。そして稚内空港から羽田へと帰路についた。礼文島のフェリー乗り場で最後に食べた海鮮ラーメンは本当においしかった。